

日本ギア工業（6356）

メンテナンス・レジリエンス2026 展示会報告・企業分析

電動弁アクチュエータの高度化と、電力インフラ更新が拓く最高益更新局面

現地写真：2026年7月 東京ビッグサイト

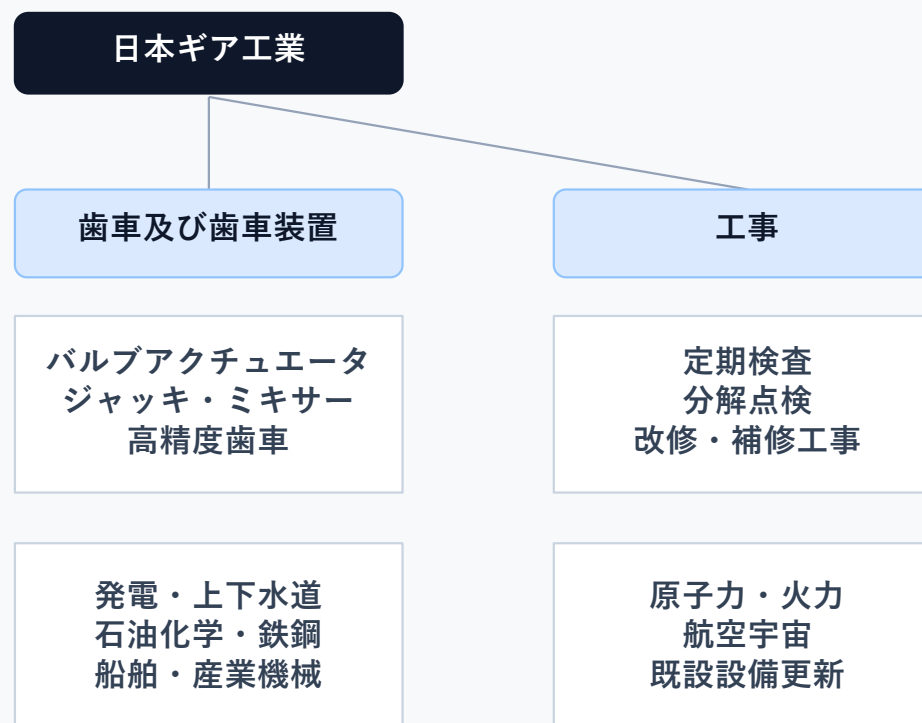
企業概要：バルブを「確実に動かす」機械制御の専門メーカー

発電・水処理・石油化学など、止められないインフラ設備に組み込まれる

1938年創業。歯車技術を基盤に、バルブアクチュエータ、ジャッキ、ミキサー、高精度歯車を展開。
発電所・上下水道・石油化学・鉄鋼・船舶・航空宇宙など、長寿命・高信頼性が求められる設備向けが中心。
国内原子力発電所向けバルブアクチュエータは会社公表で90%以上のシェア。納入後30～50年の保守まで含む事業モデル。

ESG・マテリアリティの読み替え

長寿命製品と保守により、既設インフラの安全稼働を支える
ISO9001を軸に品質保証を重視
設備診断・AI/IoT化で保全の高度化余地



沿革：歯車メーカーから原子力・社会インフラの重要部品提供会社に

時期	出来事	戦略的意義
1938年	創業。歯車・歯車装置を基盤に事業開始	機械伝達・減速機構のコア技術を蓄積
1960年代	バルブアクチュエータを国産化・発電所向けへ拡大	商用原子力・火力建設期に標準機の地位を獲得
1990年代	大規模地震時の緊急遮断弁で高信頼性を示す実績	災害時の作動信頼性が社会的信用を補強
2000年代以降	既設発電所・上下水道・石油化学設備の保守を拡充	納入後30～50年のサービス収益を蓄積
2022年	東証市場再編でスタンダード市場へ	成熟ニッチ企業として資本効率・還元が評価軸に
現在	原子力再稼働、火力高効率化、老朽インフラ更新がテーマ	受注産業として受注高・採算・人員体制が焦点

同社の強みは「新規販売」だけでなく、設置済み基盤・保守部品・点検ノウハウの継続性にある。

原子力向け90%超シェアを獲得：機器＋保守＋認定のロックイン

「地震で動いた」物語は重要だが、実際の収益源は長期保守と更新

原子力向けシェア

90%以上

会社公表値

製品寿命

30～50年

保守前提の長寿命

26/3期工事OPM

32.5%

定期検査・改修が高採算

注意点

第三者統計なし

会社公表シェアとして扱う

弁

流体を止める/開く



アクチュエータ

弁を回す力を発生



減速・トルク制御

必要な力で止める



リミット/トルクSW

過負荷と位置を監視



保守/診断

長期稼働を担保

大地震時の事例

阪神・淡路大震災時の石油タンク緊急遮断弁の作動実績。
原子力発電所で「他社が対応不十分」

投資上の本質

信頼性が受注の入口。利益の本質は既設品の点検・交換部品・設定ノウハウ。
原子力再稼働が進む局面では、定期検査・改修工事の需要が継続的に発生。

現地展示は「大型歯車」から「止めない弁制御」まで展示



展示内容

- 直径1,000mm・表面粗さRz 0.0015の大型高精度歯車
- 世界最新鋭を掲げる機械式LSBバルブアクチュエータ
- 有線と無線を併用するAE冗長化システム
- 発電・上下水道・石油化学向けの保守・診断提案

今後の経営の方向性

単品機器の販売から、信頼性・診断・保守を含むライフサイクル価値へ営業軸を拡張していく。

展示3製品は信頼性・省スペース・保守性を別角度から強化

LSB 機械式アクチュエータ

- 30%以上小型化
- IP68／高トルク
- 部品点数削減

AE 電子式バルブアクチュエータ

- 有線＋無線冗長
- 遠隔操作・監視
- 障害時の代替経路

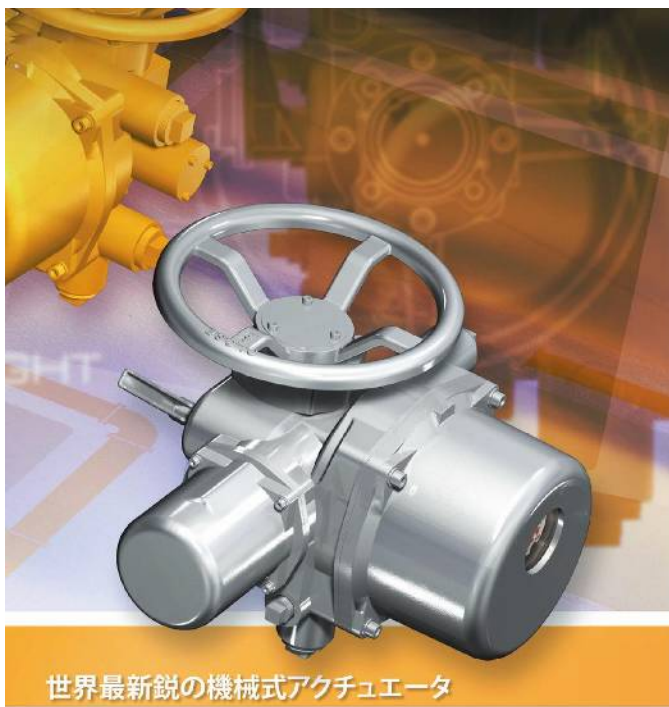
大型高精度歯車

- 直径1,000mm級
- 超高精度加工
- 大型プラント対応

共通価値：プラントの停止リスクを下げ、限られた据付空間と保守人員でも長期運用を支える

① LSB : 世界最小・最軽量を実現

LSBは小型化だけでなく、事故時・保守時の可用性を高める



世界最小・最軽量への挑戦を掲げ最新型アクチュエータの「LSB型」をリリース。
堅牢かつ精度の高い構造と充実した制御機構に加え、メンテナンス性に優れた設計により、
長期にわたる安定動作をお約束します。
広範なフィールドでの要求にお応えするために、幅広い減速比を持つ、耐水型、防塵型、
インテグラルコントロール仕様などの保護形式をご用意しました。
耐水性能: IP68を標準仕様。※事故時の冠水に対応(水没72h、水頭10m)

30%以上

従来L120型比の小型化

IP68

水没72時間・水頭10m想定

高トルク

小型筐体でも大きな弁を駆動

部品削減

設定・保守作業を簡素化

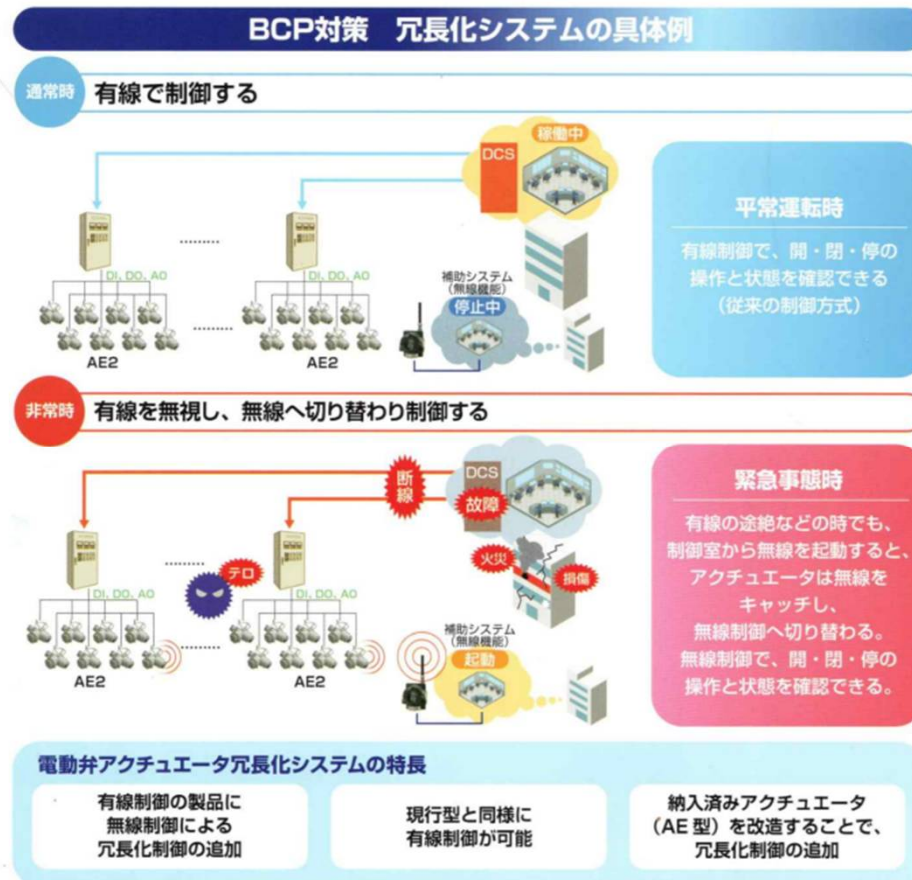
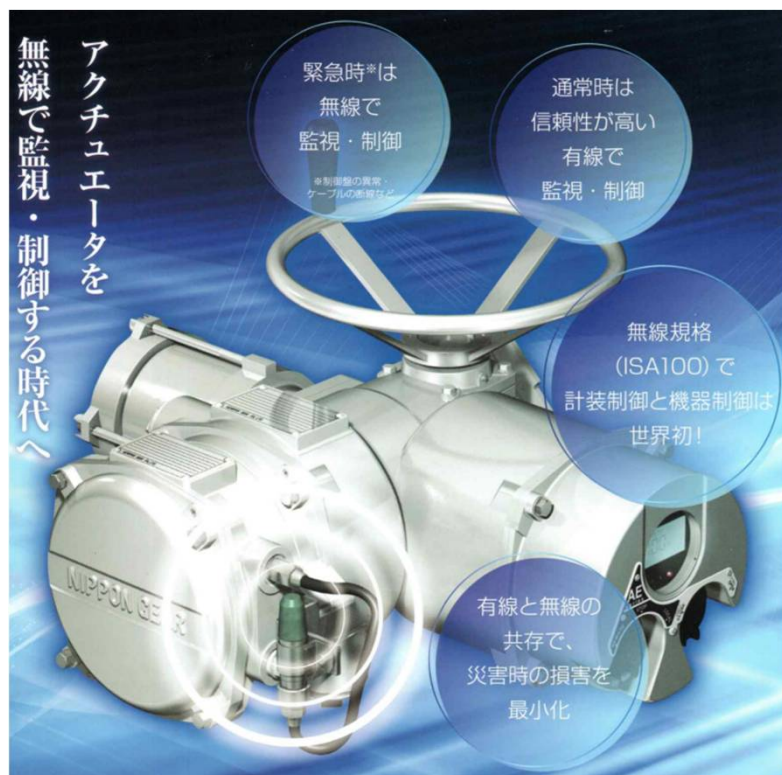
注目点

省スペース化は更新工事の施工制約を緩和。IP68と機械式の堅牢性は、原子力・火力・上下水道の長期稼働要求と整合する。

② AE：世界初のBCP対策（自然災害でも事業継続性を担保する事業継続計画）への対応

有線＋無線の冗長化は、通信断絶でも設備停止に直結させない仕組み

ケーブル断線・浸水・工事時の操作経路喪失も補完。安全計装そのものの代替ではなく、制御・保守の可用性を高める設計思想。



③ 高精度歯車

自動車用歯車メーカーとして80年以上の歴史、自動車、鉄道、産機に強み



▶ 高精度円筒歯車

長年の製作実績のある高精度の円筒歯車です。コンプレッサーや発電機等に使用されています。



▶ 高精度スパイラルベベルギア

歯面を高精度に加工したスパイラルベベルギアです。精密工作機械や船舶等の駆動部に使用されています。



▶ ストレートベベルギア

スパイラルベベルギアと比べ、スラスト荷重が小さい為、スラスト荷重を嫌う箇所に多く使用される歯車です。



▶ ハイポイドギア & スパイラルベベルギア

一对の歯車で12:1という減速比が可能です。車両、船舶、産業装置等幅広く使用されています。

*最近注目のフィジカルAIロボット向け歯車は手掛けておらず、あくまでも大型歯車製造に特化、むしろ造船、海洋開発、港湾設備、大型建機、航空宇宙向けなどに注目

保守・診断は設置台数をストック収益へ転換する



A・B・C点検

定期的な分解・作動・状態確認

MAC/eMAC

保守管理と点検履歴の高度化

SAM

ステムナット摩耗の自動計測

MOVIDAS

電動弁の運転中診断

改造 · 更新

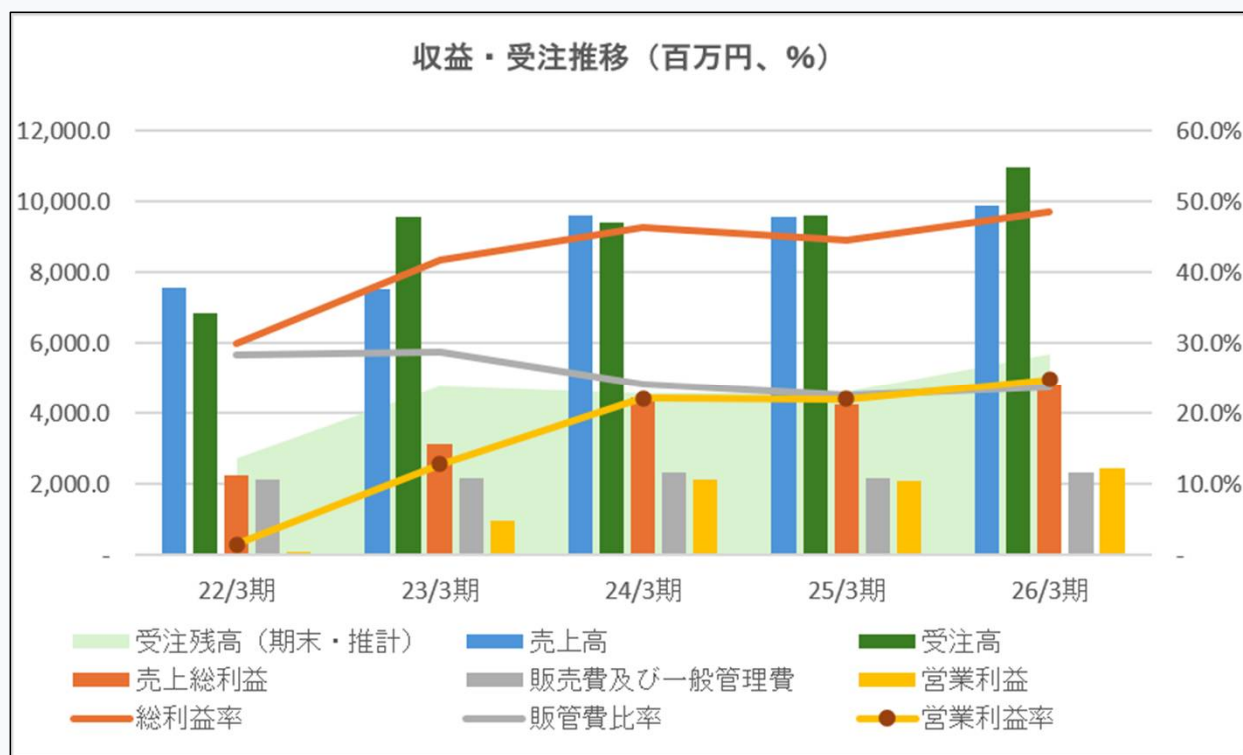
旧型から新型、制御・安全性向上

新規販売 → 点検 → 診断 → 改造 → 更新

26/3期3.4%増収16.7%営業利益増で収益性向上から2期連続営業利益最高額を更新

売上成長よりもミックス・価格・保守工事の採算が利益を押し上げ

過去5年P/L：24/3期以降、採算水準が一段と上昇、売上では12/3期115億円以来の水準

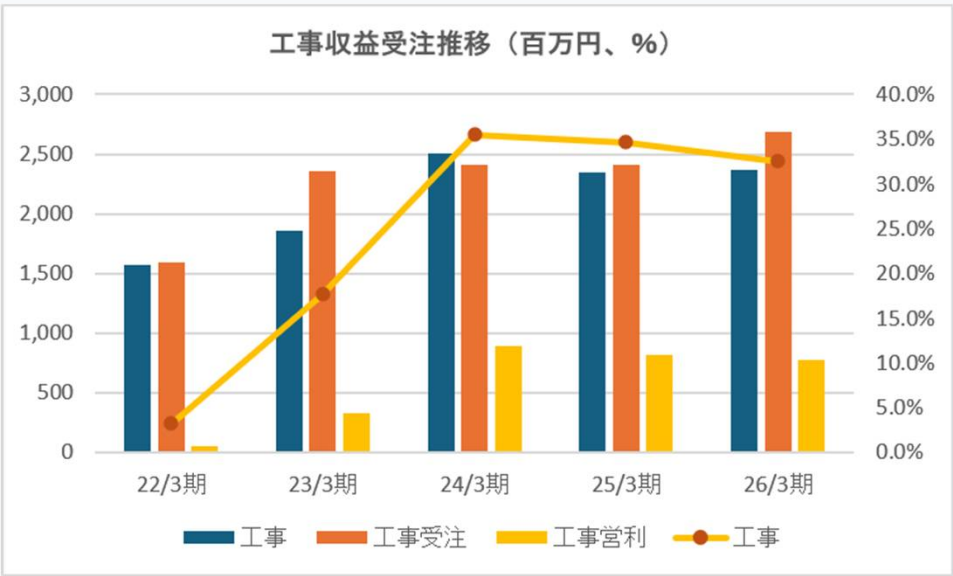
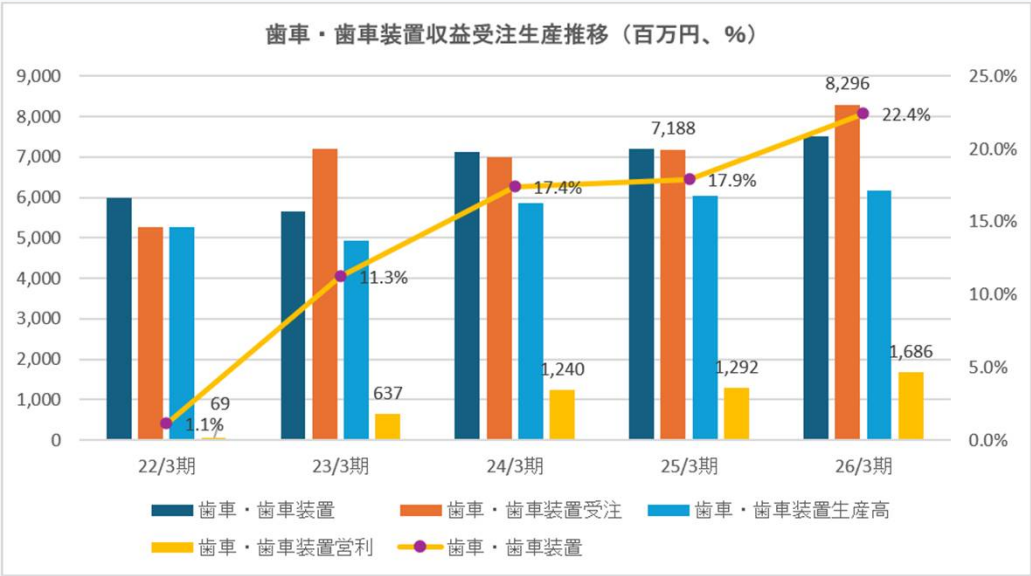


ポイント：営業利益率は22/3期1.6% → 26/3期24.9%。単なる市況循環ではなく、原子力・火力・工事のミックス改善が背景。

セグメント別：歯車装置が増益率引、工事は高採算を維持

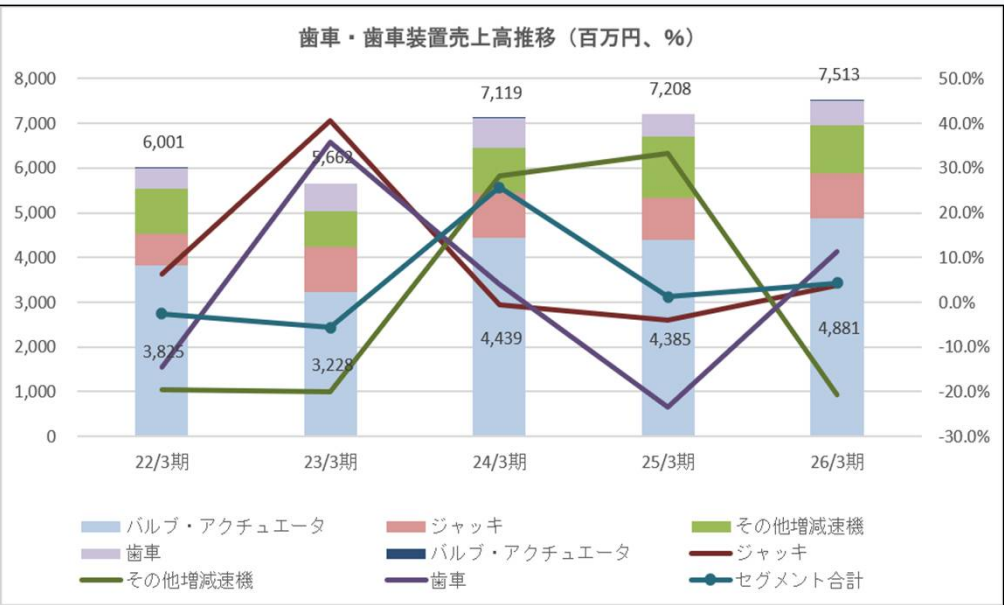
工事セグメントの営業利益率は30%超、保守・改修の収益性を示す

セグメント	25/3売上	26/3売上	増減率	25/3営業利益	26/3営業利益	26/3営業利益率
歯車及び歯車装置	7,208	7,513	+4.2%	1,292	1,686	22.4%
工事	2,348	2,370	+1.0%	814	771	32.5%
合計	9,556	9,884	+3.4%	2,106	2,457	24.9%

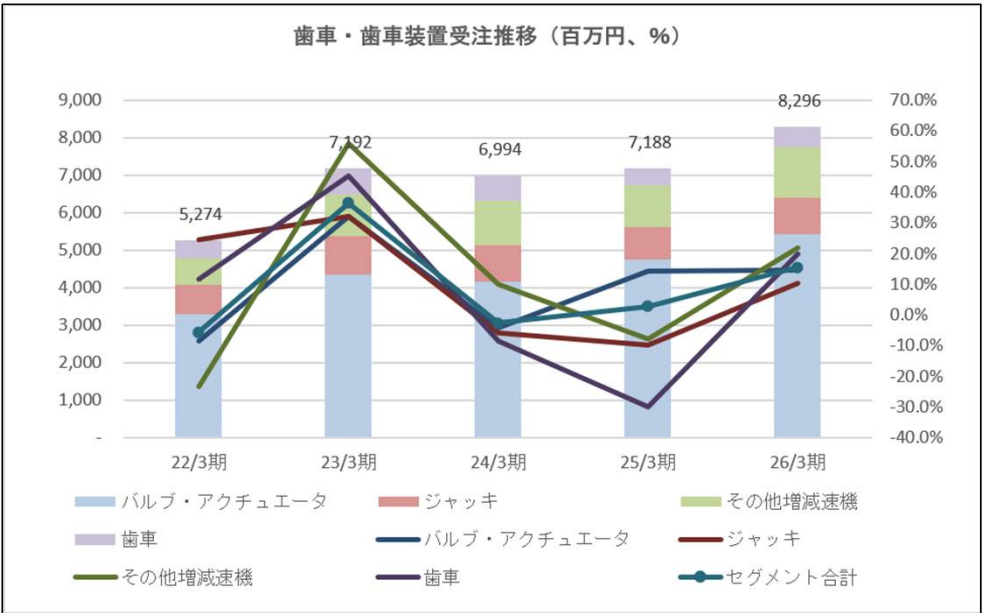


26/3期歯車・歯車装置の製品別では主力のバルブアクチュエータの売上・受注が2桁増

工事セグメントの営業利益率は30%超、保守・改修の収益性を示す



- ・ 主力のバルブアクチュエータが11.3%増と火力・原子力発電所向けに増加
- ・ ジャッキは紙パ・一般産機向けが増加し3.7%増
- ・ その他増減速機は火力、化学向け減少し20.7%減
- ・ 歯車は産機向け好調で11.3%増
- ・ 工事業は火力発電所、原子力発電所向け増で1.0%増

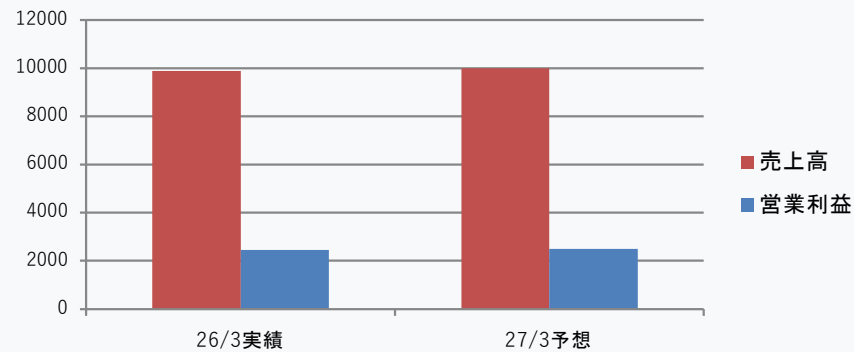


- ・ 主力のバルブアクチュエータが14.5%増と火力・石油ガス向けに増加
- ・ ジャッキは紙パ・一般産機向けが増加し10.1%増
- ・ その他増減速機は石油ガス、鉄道船舶用が増加し21.9%増
- ・ 歯車は鉄道船舶用、産機向け好調で19.9%増
- ・ 工事業は火力発電所、航空・宇宙向けが好調で11.7%増

27/3期会社予想：1.2%増収、1.7%営業利益増予想は電力設備増強等で上振れ期待

売上100億円・営業利益25億円の節目を計画

項目	26/3期実績	27/3期会社予想	前期比	評価
売上高	9,883	10,000	+1.2%	受注高+14.5%に比べ保守的、受注残高多く上振れ期待
営業利益	2,457	2,500	+1.7%	営業利益率25.0%を維持、電力向け増でMIX良化へ
経常利益	2,507	2,560	+2.1%	財務収支の大きな変動なし
当期純利益	1,751	1,760	+0.5%	税負担・特別項目で伸び抑制
EPS / DPS	123.01円 / 10円	123.62円 / 10円	ほぼ横ばい	配当性向は低く、還元拡大余地



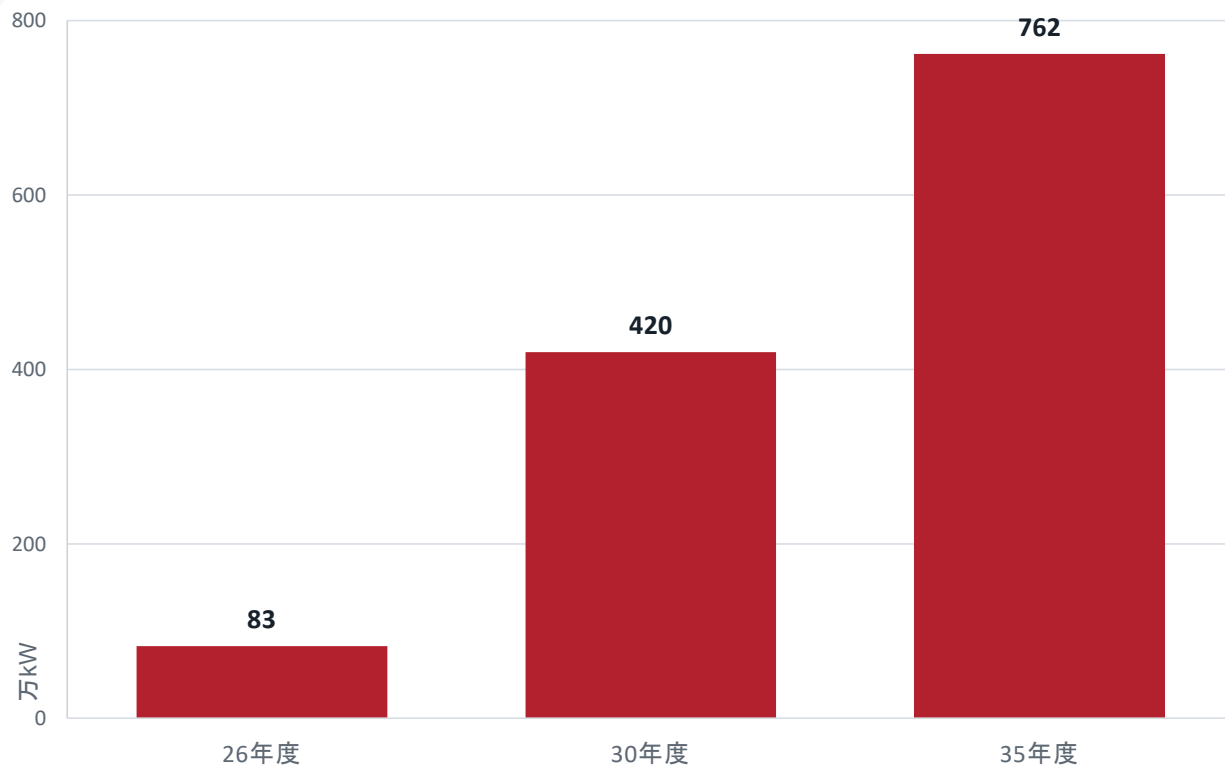
妥当性評価

- ・ 26/3期は受注高が売上を上回り、受注残高も増加、27/3期は12/3期の売上高115億円以来の売上100億円超えへ。
- ・ 研究開発・工場投資・人員対応で利益率は横ばい前提は妥当、生産高が増加見通しで原材料高などは稼働率向上で十分カバー可能とみられる。
- ・ 27/3期も発電需要の増加で電力発電所関連投資や補修需要で上振れ期待。さらに造船や港湾設備増強などでも上振れ期待。

ユーザーにおける採用の決め手は「初期価格」より停止損失の回避

原子力	耐震・耐環境、長期供給実績	資格・採用実績が参入障壁
火力・LNG	高温・高圧系統、頻繁な起動停止	更新・改造・定検需要
上下水道	浸水耐性、遠隔操作、省人化	IP68・無線冗長化
石油化学	防爆、腐食環境、停止損失	設備保全DXとの親和性
データセンタ周辺	冷却水・非常用発電・受変電	直接納入の開示確認が必要

データセンタ・半導体工場で2035年度に762万kWを個別計上



電力需要の増加が呼ぶ投資

- 発電設備の新增設・再稼働
- 変電所・送電線・系統増強
- 非常用発電・冷却水設備
- 既設火力の延命・高稼働化

日本ギアへの波及

弁アクチュエータ、減速機、歯車、据付・保守が複数設備に分散して発生。

需要連鎖

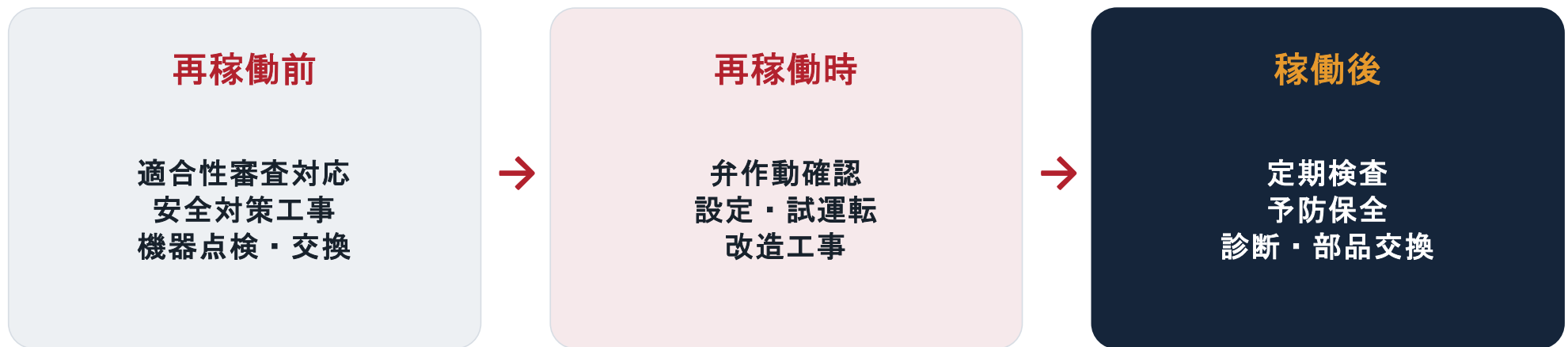
データセンタ需要は4段階の設備投資を通じて波及



分析上の注意

会社はデータセンタ向け売上を独立開示していない。短期業績予想には、電力・水・非常用設備の案件増加を受注の上振れ要因として評価

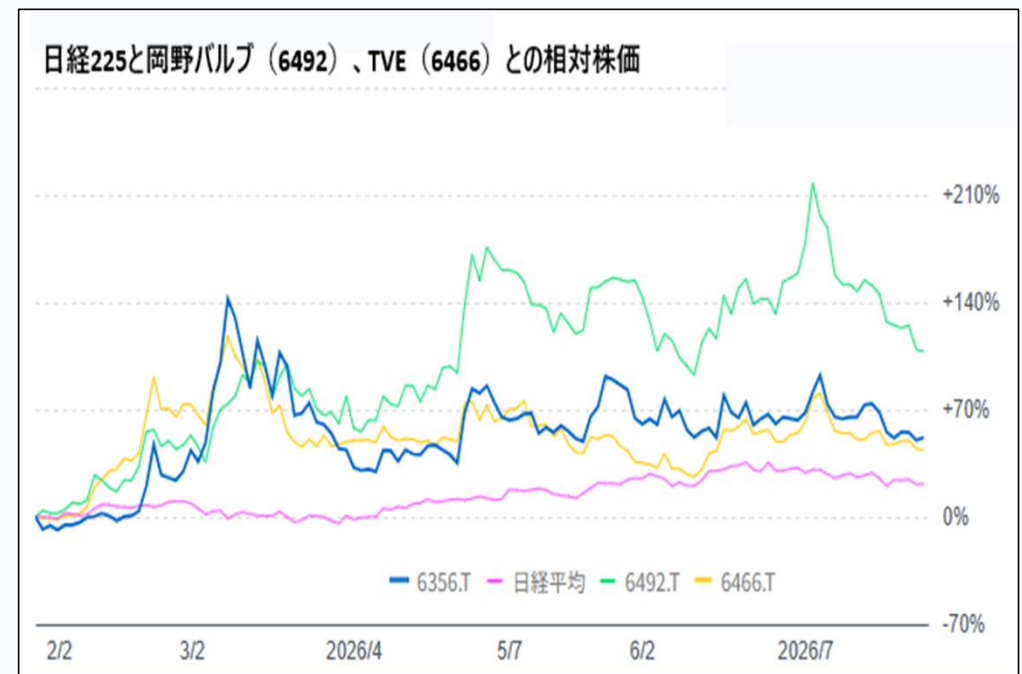
原発再稼働は「初期改造＋定検＋診断」の長期需要を生む



競争優位の本質

原子力は認定・品質保証・保守履歴が重く、既設メーカーの継続性が価値になる。再稼働基数の増加よりも、稼働設備の定検密度と改造案件の継続が収益安定化に効く。

評価：株価は連続最高益更新で割安感も、IRに消極姿勢でややポジティブ止まり



・同社株価は高市政権が1月28日まで「電力システム改革の検証を踏まえた制度設計WGとりまとめ(案)」を行い、データセンタ投資などで原子力発電の見直しも話題となり、電力設備関連銘柄が高騰、同社株も急上昇し、3/10の成長戦略会議の中で成長戦略17分野の推進でエネルギー関連強化が示されたことから3/11には2287円の上場来高値更新となった。その後、27/3期予想が微増収増益予想となったこともあり、最近では1500円を挟んだ動きとなっている。

・現在、27/3期会社予想EPS123.63円に対しPER11.2倍は東証機械スタンダード平均PER18.7倍に対し割安感がある。また類似会社の岡野バルブ16.3倍、TVE18.3倍に対しても割安感がある。同社は短信以外説明資料の開示がなく、サブセグメント開示も伸び率のみとIRに消極的な点で割り引かれる必要がある。ただし今後の原子力発電所の再稼働や電力設備投資の活発化などで最高益更新が続くとみられ、自己資本比率が84%と高い中で配当性向が8.1%に過ぎず、今後、増配も話題となるとみられ、IRに消極劣後企業であり、ややポジティブの評価に止めたい。なお、27/3期Q1決算発表は7/31予定、増額修正でもアナウンスされれば急上昇も。